

## V-2 国際経済研究会

## 国際経済問題の地域的論点：国際経済研究会での議論からの整理

塩谷 雅弘

## 1 概要

国際経済研究会（金沢大）という研究会を2，3ヶ月に1度のペースで開催している。私は初回の会合から世話役を務めている。参加者は国際経済に関心がある教員や大学院生である。研究会では、ご自分の研究の報告や他者による興味深い研究の紹介を行った後、これら研究のテーマ、背景、分析の妥当性、拡張性、そして応用性について議論している。これまで報告されたテーマは、どれも、国際経済、すなわち国内経済が外国との経済取引から受ける影響や外国経済に関する話題として、今日特に注目を集めているものである（表1）。

## 2 本稿の目的

この研究会を立ち上げるきっかけは、私が人間社会研究域付属地域政策研究センター（以下、センター）の研究員を兼ねることになったことと関係がある。国内の地域経済に国際経済的な検討を加えたいと考えるセンター長の佐無田光先生に誘われ、金融経済論とアジア経済論の担当教員として金沢大学に着任したばかりの私はセンターの研究員を兼ねることになった。センターには国際経済を専門とする教員はほとんどおらず、まずはセンターの内外を問わず、自由に国際経済についていろいろと議論ができる場を設けたくて、世界経済、国際金融、マクロ経済など関連分野の教員の協力を得て、国際経済研究会を立ち上げることとなった。本稿では、初回の会合から約4年が経ち研究会のこれまでの活動を振り返るこの機会に、国際経済研究会での活動を紹介しつつ、国際経済問題の地域的な論点を指摘する。

## 3 国際経済

国際経済の主たる関心は、外国経済だと思われがちだが、実は、国内経済にある。すなわち、国際経済の主たる関心は、国内経済が外国との経済取引によってどのような影響を受けるか、国際的経済取引を行う国の国内経済問題の検討である。この視点からこれまでの研究報告を振り返ってみることにする。

表1はこれまでの国際経済研究会で報告された報告テーマを示している。報告テーマは次のように分類することができる。第1は、経済発展を進めるうえでの外国企業の役割に注目するものである（第1回、第3回、第4回、第8回、第12回など）。途上国経済から見れば外国企業の進んだ技術の取り込みに注目するが、先進国経済から見れば国内経済の一部機能の外国への移転の影響に注目する。また、多国籍企業の活動に注目することもあ

る。関連して、児童労働など途上国経済の問題に注目するものもある。第 2 は、国内経済を外国ショックから隔離するための政策や国内経済制度を外国経済制度に統一化させる政策に注目するものである（第 2 回、第 5 回、第 8 回）。外国との取引拡大に合わせた通貨や銀行制度統一化の問題に注目することも多い。第 3 は、過去の移民政策など国際間の労働移動や資源に注目するものもある。こうした国際経済の話題はどのような地域的な論点を持つのか、以下ではこの点を検討したい。

#### 4 国際経済問題の地域的な論点

通信技術が急速に発達し、インターネットを利用して、距離に関わらず瞬時のうちに電子文書の受け渡しが可能になった。通信技術や輸送技術の発達、関税など貿易障壁の削減、そして資本規制の自由化により、財・サービス、人、資金の移動コストは飛躍的に低下し、より望ましい取引相手を探す地理的範囲が広がり、外国との経済取引が増えた。

国際経済問題の地域的な論点として次の点を指摘しておく。第 1 は、国際経済における地域経済統合化の地域的特性に関連する。貿易や資本フローの状況をよく観察すると、先進国と新興国の間で、新興国でもアジア地域、欧州地域、ラテン・アメリカ地域など地域間でその特徴に違いが確認できる。貿易については、アジア地域や欧州地域では、地域的貿易協定や国際的生産ネットワークの形成を伴って地域内貿易が急速に拡大している。資本フローについては若干複雑である。直接投資タイプの資本フローは貿易のフローに近く地域内移動が大きい。証券投資や銀行債務タイプの資本フローは先進国・新興国間で大きく、国内金融市場の深化の程度の違いも影響して地域間で特徴が異なる。経済統合の地域間の違いはどのようなものか、その違いが生まれる要因は何かを検討することは、地域の経済統合の特徴を捉え、地域経済統合化に伴う外国との経済取引が国内経済に与える影響を分析するうえで大変有益であると考えられる。第 2 は、経済圏を形成する地域の広範囲化と地域内競争の激化に関するものである。地域内の各国経済制度の統一化や隔離化政策の検討、国内の産業空洞化問題、競争の過度な激化に伴う保護主義化の動きなども注目すべき検討課題である。

国際的経済活動の拡大は、地域的特性をもって進展している。地域的特性を生む要因を意識しながら国際経済問題を検討することは、より理解を深めるうえで大変有益な検討方法の一つであるといえよう。

#### 5 国際経済研究会へのお誘い

国際経済研究会の現在のメンバーは金沢大学の国際経済に関心をもつ教員 8 名（程度）である（2018 年 3 月 15 日現在）。また、最近は他の研究会との共催で開催することも多くなった。メンバーとして、あるいはオブザーバーとしての研究会への参加を希望される方は、世話役の塩谷雅弘（金沢大学・准教授）まで、連絡いただきたい。

表1 国際経済研究会（金沢大）開催実績

回数	日付	曜日	時間	発表者	発表タイトル	共催
1	2014.10.1	水	15:05-16:20	王 思堯 (M1 正木)	衣料品生産の国際移動 —アジアからアフリカへの可能性—	
2	2014.12.11	木	13:30-15:00	塩谷 雅弘	Global Liquidity and Drivers of Capital Flows to Emerging Economies	
3	2015. 2.12	木	13:40-15:00	王 思堯 (M1 正木)	アフリカの経済発展と労働集約産業 —Tシャツ生産の国際移動に関する実証分析からの考察—	
4	2015. 6.18	木	13:00-14:30	佐無田 光	グローバル資本主義の機能分業 と日本の地域経済システムの再編成	
5	2015.10. 8	木	13:30-15:00	佐藤 秀樹	Harmonization on Banking Regulation and Supervision : The European Banking Union and its Approach	
6	2016.2.23	木	16:00-17:30	池下 研一郎	How Can We Reduce Child Labor?	
7	2016. 6. 9	木	13:00-15:00	正木 響	Global history of guinée cloth exported to French territories in Western Africa via France 1833–1925	
8	2016.10.13	木	13:00-15:00	郭 良 (M2 正木)	Directions and Possibilities of the Monetary Union in West Africa	【人経3】 【人融5】
				加藤 篤行	The Effect of Exchange Rate Changes and Firm Heterogeneity on Japanese Manufacturing Exports	【人経3】 【人融5】
9	2017. 1.12	木	13:30-15:00	東江 日出郎	フィリピンにおける民主的 地方政治権力の誕生と 地域開発へのインパクト	【人経3】 【人融5】
10	2017. 5.18	木	13:30-15:00	小林 信介	『人びとはなぜ満州へ渡ったのか』とその反応	【人経3】 【人融5】
11	2017. 7.13	木	14:00-15:30	大木 一慶	International intellectual property rights protection and economic growth with costly transfer	【人経3】 【人融5】
12	2017.12.14	木	13:30-16:00	佐藤 隆広 (神戸大)	Japanese Multinationals in India : Evidences from METI's Survey of Overseas Business Activities	【人経3】 【人融5】
				古田 学 (神戸大)	Trade Liberalization and Wage Inequality in the Indian Manufacturing Sector	【他1】
13	未定					

出所：著者作成

注：場所は、人間社会2号館5階第3会議室。発表者氏名の（ ）内は所属。M1、M2は大学院生修士1年、2年をそれぞれ示し、その横は指導教員を示す。（ ）がないものは金沢大学経済学経営学系教員。共催研究会は以下のとおり。下の（ ）内は研究代表者。  
【人経3】「経済システムの発展経路と国際的経済関係に関する比較研究（野村真理）」の研究会  
【人融5】「グローバル経済下における地域システムの再編成、社会的リスク、および地域再生に関する研究（佐無田光）」の研究会  
【他1】科研基盤C課題番号16K03673（加藤 篤行）の研究会